令和7年度　地域連携フォーラムアンケート結果

参加者　29名、　アンケート回答　20名（回収率69.0%）

1 主たる所属施設　（名）

病院・クリニック等	10
訪看・看多機	6
地域包括	3
入所施設	1

2 病院看護職の所属　（名）

外来	6
入退院支援部門	2
病棟(退院支援)	0
病棟(その他)	2

3 講演の満足度　（名）

満足	17
やや満足	2
やや不満	1
不満	0

4 グループディスカッションの満足度　（名）

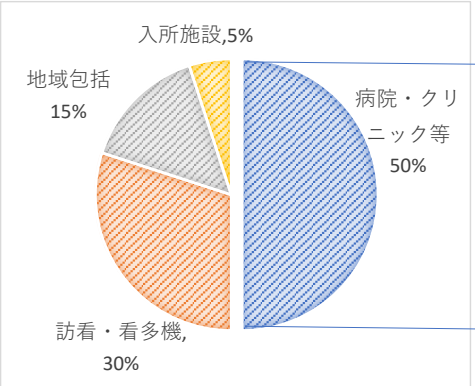
満足	14
やや満足	4
やや不満	0
不満	0

※2名不参加

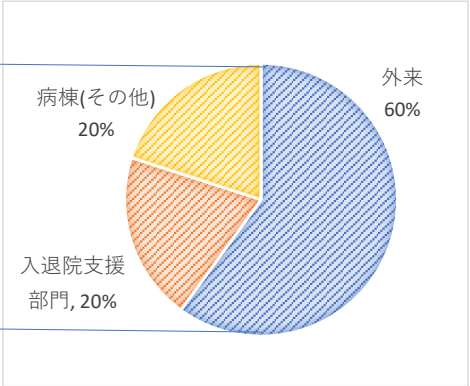
5 目標の達成度　（名）

達成	10
やや達成	9
やや未達成	1
未達成	0

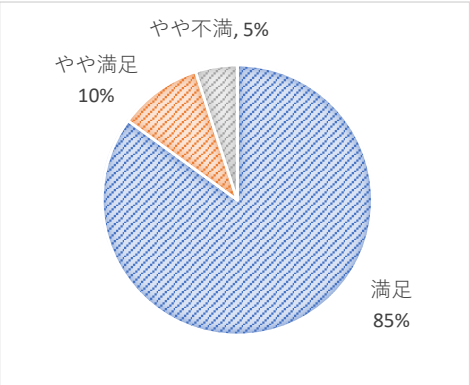
1 主たる所属施設　n＝20（名）



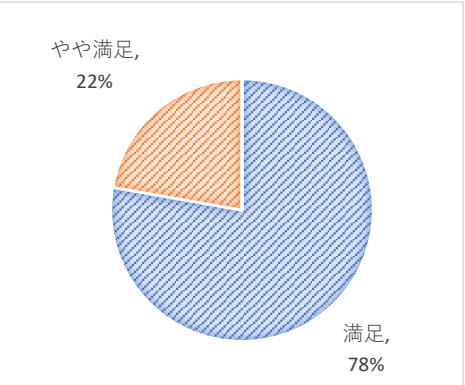
2 病院看護職の所属　n＝10（名）



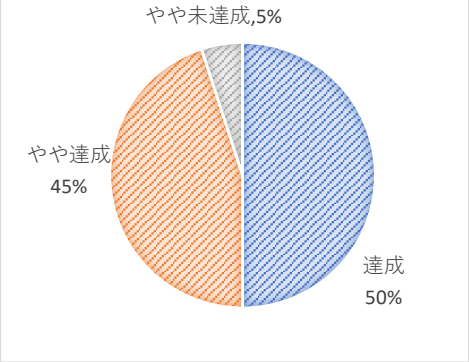
3 講演の満足度　n＝20（名）



4 グループディスカッションの満足度　n＝18（名）



5 目標の達成度　n＝20（名）

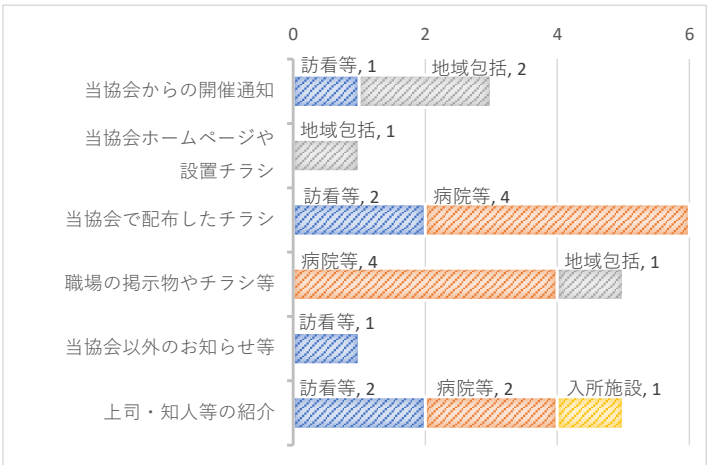


【目標】
患者（利用者）が地域で安心して生活できるような療養環境を整えるために、自身の地域状況や立場に応じた看看連携の形を考えることができる。

6 参加のきっかけ（複数選択可）　（名）

	訪看等	病院等	地域包括	入所施設	合計
当協会からの開催通知	1		2		3
当協会ホームページや設置チラシ			1		1
当協会で配布したチラシ	2	4			6
職場の掲示物やチラシ等		4	1		5
当協会以外のお知らせ等	1				1
上司・知人等の紹介	2	2		1	5

参加のきっかけ（複数選択可）　n＝20（名）



＜目標の達成度に関する回答理由＞（自由記載）

1）達成・やや達成の方

・訪問看護でほしい情報が今の看護サマリーでは足りていないので、それを盛り込めるようにスタッフ指導をしようと思った。
・訪問看護が病院と連携しにくい理由などを聞けてよかった。今、自身が自部署で取り組んでいる活動の方向性が間違っていないことがわかった。
・地域と病院ではフォーカスが違い、必要な情報も違うことに気づけた。
・現状の課題が見えた。また、それぞれの病院での支援体制の違いがあることがわかり、参考になることも多かった。
・他施設の看看連携や多職種連携についての情報交換が出来たことで、外来、病棟間での連携不足に気づくことが出来た、今後改善できる内容を知ることが出来た
・外来看護師としてどのように活動していくと地域に貢献できるのか、そして外来看護師として必要なことを学んだ。
・外来・入院・退院後と継続する看護が必要であることを今回の症例を拝聴し感じた。病院の人員配置により、退院調整後は外来看護師に業務を分担しているが，外来看護師が訪問看護事業所との連携をどのように行っているのかは把握できていないため、今後の業務改善に向けての課題を見つけることができた。
・非常に理想的な看看連携の事例に基づいて講義をしていただき、参考になった。ここまでスムーズに各関係機関が積極的に関わることは現実的にはなかなか無いことなので、気になる点がある利用者に関しては、自分から積極的に他機関に関わり連携していくことが大切と感じた。
・事例を通して、地域連携の理想の形を確認することができた。しかし、病棟に勤務している中、訪問看護やケアマネジャーと連携をとることが難しいとも感じている。これからは、地域で開催されている多職種での交流会などに積極的に参加し、地域の方々と顔の見える関係を作ることが、私のできる地域連携であると感じた。
・病みの軌跡の理解と今度の見通しを立てることで、ACPのタイミングの覚地と場面づくりを、在宅と外来双方が協力しあえる、素晴らしい連携だと思った。在宅側からどんなふうに外来看護師へ情報提供を含む連携ができるのかのヒントをいただいた。

2）やや未達成の方

・入居者様、そのご家族様の思いに応えられていないと感じた。

＜感想や今後の開催に関する要望など＞

・Aさんが最後までAさんらしく生きられて良かった。
・講義の中の事例がとても参考になった。
・貴重な講演ありがとうございました。 これから、もっと利用者の方に感謝されるような外来を目指していきたい。
・事例のような関りは、各機関・部門が役割を十分に発揮しコミュニケーションを密にとる必要がある。一人の患者を囲むすべての医療従事者が同じ熱量で支えられるように、密なコミュニケーションで連携を図ってけるよう、外来の基盤を整えていきたい。
・大変興味深い事例を基にした地域連携の話だった。患者がよりよく生きるために、病棟でももっと外来、訪問看護と積極的な連携を図る必要があると思った。
・講義のスピードが速かったので、もう少し研修時間を伸ばして、ゆっくり解説してもらえたらもっと頭に入りそうだと感じた。貴重なお話をありがとうございました。
・外来はどこも忙しいことがわかった。訪問看護と連携するために退院支援看護師として何をしていかなくてはいけないのかが、改めてわかった。
・症例が非常に長く感じられたが、入退院を繰り返す中での継続的な関わりにより、一人の患者の生き方を支援できるということ。勤務している場所は違えど、看護師としての視点を活かした看看連携の重要性がわかった。
・勉強になった。他職種の連携だけでなく、看護師同士の連携の大切さを改めて感じた。
・とても良い経験だった。看看連携が必須な世の中になっていると思うので、これからも頻回に看看連携の場があるとよい。
・グループディスカッションで 病院、訪看の方々と関われて それぞれの考えを聞く事ができた。「思いは患者様のために！」 とても良いディスカッションだった。
・他施設の看看連携や多職種連携についての情報交換が出来たことで、外来、病棟間での連携不足に気づき、今後改善できる内容を知ることが出来た 。
・外来看護師や訪問看護師の方々とディスカッションでき、視野が広がり、多角的に利用者を捉えることができ、とても有意義な研修だった。
・病院は医療の視点・在宅は生活の視点が強く、うまく連携できないとゴールにずれが生じやすいと考える。病棟では業務に追われ、患者のこれまでの生活などを考えることが難しく、加えて疾患や年齢情報等によるバイアスや病気の悪い状態しか知らないことなどから生活の視点で考えることが難しいと感じた。
・利用者に一番近い医療職である看護師が連携しACPを支えることを実践していきたいと感じたのと、また、難病利用者の場合は幅広い制度の理解が必要であり必要時利用者へ効果的な提案ができることもスキルであると考えられた。